

# 耳硬化症のCT診断: 耳硬化症病変強調画像を用いた診断能向上に関する研究

## 『研究対象者の方へ』

当研究は九州大学病院放射線部において2007年10月1日以降2013年9月30日までに側頭骨CTを撮影された、耳硬化症の患者さん30名、および対照者として、耳硬化症以外(外傷、中耳炎、真珠腫性中耳炎、顔面神経麻痺、めまい)の理由にて側頭骨CTを撮影された患者さん30名を対象に致します。

対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

## 【はじめに】

耳硬化症とは側頭骨迷路に局限する疾患で、耳小骨の中でも深部にあるあぶみ骨の可動性が不良になる事により難聴を来す疾患です。診断においては臨床症状以外にもCT検査が有用ですが、病変が小さいため、主観的な評価には熟練を要します。CT画像処理を行う事で、耳硬化症病変を強調(高信号に変換)する事が可能となれば、診療経験年数等に左右されずに客観的な評価を付加する事が可能となります。

## 【研究内容】

CT画像および耳硬化症病変を強調させた処理画像を用いて耳硬化症の診断能を評価します。耳硬化症患者さんおよび対照者(健側)における側頭骨CTおよび、画像処理を加えた画像を用いて、放射線科医2名による読影実験を行います。放射線科医の診断能(耳硬化症病変の同定率)が向上するかどうかを統計学的に解析します。尚、登録時に以下の臨床情報を診療録より取得致します(①年齢、②性別、③聴力、④手術日)。

## 【個人情報の管理について】

個人情報漏洩を防ぐため、九州大学大学院医学研究院臨床放射線科学分野(九州大学病院放射線科)においては、個人を特定できる情報を削除し、データのデジタル化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております。本研究の実施過程及びその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。ご希望によりこの研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことができます。また、患者さんご本人に関する個人情報は開示することができます。希望される方は、どうぞお申し出ください。

## 【研究期間】

研究を行う期間は平成30年3月31日までと考えております。

## 【医学上の貢献】

CT画像処理を行い耳硬化症病変を強調させる事により、耳硬化症診断能の向上が期待されます。

## 【研究機関・問合せ先】

九州大学病院 病院長		石橋 達朗
九州大学病院 放射線科	教授	本田 浩
	助教	樋渡 昭雄
	助教	梶尾 理
	助教	山下 孝二
	医員	菊地 一史

耳鼻咽喉科

助教 松本 希

連絡先: 〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

電話番号: 092-642-5705